

生命ある限りの再挑戦

去る5月23日に80歳のプロスキーヤー三浦雄一郎さんが、世界最高峰のエベレスト（標高8848メートル）の登頂に成功したとの快挙の報は、関係者のみならず特に私を含めた高齢者に感動と勇気を与えてくれました。

下山した後のカトマンズのホテルでの会見で「夢を見てあきらめず実行した、素晴らしい宝物になった」とのコメントは、誰しも「ネバー ギブ アップ」の意味を改めて自覚させられました。

このことで人は幾つになっても夢を失わず、そのための自らの努力と挑戦魂を失ってはいけないとの思いを一層強くしました。三浦さんご本人も行動を起こして夢が叶ったとの自信は、大切な宝物となったのだと述べておられます。これをもって理解できることは、誰でも現状に単に不満を持つと云うものではなく、常日頃の自省から「今の自分は、これで良いのか？もっと違うことではないのか？」と自問自答し生命ある限り自分の人生に立ち向う勇気が大切であるということです。

私の考えの中にある「人生と果たすべき課題」のテーマは、人が自分の人生を全うするには、自ずと年齢（体力と気力）に左右されることは揺るがない事実ですので、その職業（仕事）やビジネスモデルに適した年齢があるということです。このことを起業塾のシニアコースでいつ起業するかを時期をお話しさせて頂くときはお伝えしております。逆説的に云えばいつも年齢に則した職業（仕事）やビジネスモデルで起業して行きましようとお話しています。

今回の世界に誇れる三浦雄一郎さんの偉業について新聞記事から整理しておきます。

一念発起

三浦さんは60代に入り自らを省みて、これからの晩年が次第にキラキラして輝きが失われていくことを自覚したそうです。そして完全な生活習慣病で入院したり、肥満老人の惨さを味わされ、その反省の上に単なる老人としての余命を継ぐことを否定し、65歳のとき「自分の最後の夢はエベレストの頂上」と夢を明確にして、体力づくりの行動に移したとのことでした。この「思い立つこと」と「行動に移す」ことが人生のキーポイントになったわけです。

用意周到な準備

- 体力づくりのトレーニング

70歳、75歳と5年刻みで今回同様にエベレストに挑戦して来ましたが、体力づくりのための方法として私もTV映像で観ましたが、国内での大きな負荷をかけた登山のトレーニングには、そこまでするのか！と感嘆させられました。自らを厳しく鍛えることが成功への一歩なのです。

- 周囲のサポート

厳しい自然環境下にある最高峰での登山は、常人の想像をはるかに超えたものだと思います。いくらトレーニングを積んでも80歳の本人の考えや意志だけでは、一歩も先に進められません。なにより万全なサポート体制が必要不可欠で、成功の要因で忘れてはならないことだと思います。